

# 京都大学言語学研究

## 第41号

### 研究論文

日本手話における「変化で属性を表す」メトニミー .....	松田 俊介	1
Causal-noncausal verb pairs in Ilocano .....	Kyosuke YAMAMOTO	19
The dialectal affiliation of Tibetic varieties in gYagrwa within Yunnan Tibetan .....	Hiroyuki SUZUKI	43

### 研究ノート

OTT サービスを利用したパラレルコーパスの構築方法 .....	徐 敏徹	69
----------------------------------	------	----

2022

京都大学

大学院文学研究科

言語学研究室

Vol. XLI  
2022

KYOTO  
UNIVERSITY  
LINGUISTIC  
RESEARCH

*published by*

DEPARTMENT of LINGUISTICS, GRADUATE SCHOOL of LETTERS

KYOTO UNIVERSITY

## Kyoto University Linguistic Research Vol. 41

---

31.12.2022

<b>Editor-in-chief</b>	Yuki KAWABATA		
<b>Assistant Editors</b>	Yayun CHENG Takamasa IWASAKI Mincheol SEO	Mjeshdalpa GÜR-HGYWEM Artemii KUZNETSOV Chenjie YE	Minji HAN Haruna OTANI
<b>Editorial Board</b>	Adam CATT Masami ÔTAKE Takeshi YAMAMOTO	Norihiko HAYASHI Toshiyuki SADANOBU	Shuichiro NAKAO Syuntarô TIDA
<b>Publisher</b>	Department of Linguistics Graduate School of Letters, Kyoto University Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501 Japan TEL: +81-75-753-2827 <a href="https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/">https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/</a>		
<b>Printer</b>	Nakanishi Printing Co. Ltd. 146 Nishioji-cho, Shimodachiuridori Ogawahigashiiru, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8048 Japan		

# 『京都大学言語学研究』第 41 号

## 目次

### 研究論文

日本手話における「変化で属性を表す」メトニミー

松田 俊介 ..... 1

Causal-noncausal verb pairs in Ilocano

Kyosuke YAMAMOTO ..... 19

The dialectal affiliation of Tibetic varieties in gYagrwa within Yunnan  
Tibetan

Hiroyuki SUZUKI ..... 43

### 研究ノート

OTT サービスを利用したパラレルコーパスの構築方法

徐 敏徹 ..... 69

京都大学言語学懇話会 2022 年度発表要旨 ..... 94

『京都大学言語学研究』第 42 号原稿募集 ..... 101

執筆者紹介・編集後記 ..... 103

## 『京都大学言語学研究』第 42 号原稿募集

### 投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) にて公開される。
- 同一著者 (共著を含む) は下記 A, B の種別からそれぞれ 1 件ずつ、合わせて 2 件まで同一号に投稿できる。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。なお、年度内の出版に間に合う投稿時期の目安は、例年 9 月ごろまでである。
- 採否は編集委員会で決定し、2 か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

### 投稿方法

- 投稿は電子メールにて受け取る。
- フォントの埋め込み処理をした PDF 形式のファイルを電子メールで提出。
- 下記の原稿データを原稿 (既定の様式に沿ったもの) とは別のファイルに記載し、電子メールに添付して提出：
  1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別 5. ページ数 (要旨は含めない)
  6. キーワード 7. 所属機関 8. 連絡先 (郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス)

### 執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。母語以外の言語を使用する場合は、しかるべきネイティブスピーカーにあらかじめ見てもらい、執筆者は本文の可読性について責任をもつこと。
- 種別 

A	研究論文	— 完成した研究論文
	研究ノート	— 研究の初期段階をまとめたもの
	書評論文	— 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
	言語資料	— 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
B	書評	— 他者の出版物を紹介・批評したもの
- 原稿の様式
  - サイズ A4 版用紙
  - 枚数 論文 30 枚、研究ノート・書評論文 20 枚、書評 10 枚、言語資料 30 枚を目安とする。これを超える場合は編集長と相談すること。
  - 書式 『京都大学言語学研究』のホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>) 上に掲載されたスタイルファイル、或いは Word テンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。
  - 図表 モノクロのみとする。
  - 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本語で書かれた、A4 版用紙 1 頁以

内の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第 1 著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数＋頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii + 179 pp.

Yoshida, Kazuhiko: *The Hittite Mediopassive Endings in -ri* (Studies in Indo-European Language and Culture, New Series, Vol. 5). Berlin and New York: Walter de Gruyter, 1990, xi + 216 pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を 2 通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数.

【論集などに所収の論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数. 出版地：出版社.

【単行本】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）『書名』（必要な場合は）版、（該当する場合は）シリーズのタイトルと巻号. 出版地：出版社.

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類、大学名.

定延利之 (1998) 「言語表現に現れるスキヤニングの研究」博士論文, 京都大学.

曾布川寛・吉田豊編 (2011) 『ソグド人の美術と言語』京都：臨川書店.

田窪行則 (2005) 「中国語の否定：否定のスコープと焦点」『中国語学』252 : 61–71.

田窪行則・前川喜久雄・窪菌晴夫・本多清志・白井克彦・中川聖一 (1998) 『音声』, 岩波講座 言語の科学 2. 東京：岩波書店.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēśma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’ In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.), *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen: Hemen. 39–48.

Tida, Syuntarô (2006) A Grammar of the Dom Language. Doctoral dissertation, Kyoto University.

## 編集委員会連絡先

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX : (075)753-2827 電子メール : kulr.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。

## 執筆者紹介

松田 俊介	東京大学大学院
Kyosuke YAMAMOTO	東京外国語大学
Hiroyuki SUZUKI	京都大学
徐 敏徹	京都大学大学院

## 編集後記

国内外の情勢が大きく揺れ動く中であって、研究や勉学を続けられることの幸せを切に感じた 2022 年度でしたが、今年度もたくさんのご投稿を賜りまして、無事『京都大学言語学研究』第 41 号の発行に至りました。本誌の編集・発行に際しましてご尽力をいただいた皆様に篤く御礼申し上げます。本誌は京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI 紅」にて電子ジャーナルとしても公開されております。以下の URL よりご利用ください。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bulletin/kulr>

今後とも『京都大学言語学研究』をよろしく願います。

編集委員長

## 『京都大学言語学研究』 第41号

---

2022年12月31日発行

<b>編集委員長</b>	川畑 祐貴			
<b>編集委員長補佐</b>	岩崎 崇雅	大谷 青渚	クズネツオフ・アルテーム	
	グル・クチェン・ゼステルパ	ソ・ミンチヨル	鄭 雅云	
<b>編集委員</b>	韓 旼池	葉 晨傑		
	大竹 昌巳	キャット・アダム	定延 利之	
	千田 俊太郎	仲尾 周一郎	林 範彦	
	山本 武史			(五十音順)
<b>発行者</b>	京都大学大学院文学研究科言語学研究室			
	〒606-8501 京都市左京区吉田本町			
	電話：(075)753-2827			
	<a href="https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/">https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/</a>			
<b>印刷</b>	中西印刷株式会社			
	〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146			



# *Kyoto University Linguistic Research*

Vol. 41

## Articles

- MATSUDA Shunsuke:  
The CHANGE FOR PROPERTY Metonymy in Japanese Sign Language . . . . . 1
- YAMAMOTO Kyosuke:  
Causal-noncausal verb pairs in Ilocano . . . . . 19
- SUZUKI Hiroyuki:  
The dialectal affiliation of Tibetic varieties in gYagrwa within Yunnan Tibetan  
. . . . . 43

## Notes

- SEO Mincheol:  
A Method for Constructing Parallel Corpus by Using Over-the-Top Media Service  
. . . . . 69



2022

Department of Linguistics  
Graduate School of Letters  
Kyoto University